

「新型コロナウイルス感染症対策
(公社)日本ボウリング場協会ガイドライン」
適合施設チェックリスト

1. 利用者への注意喚起

- 体調のすぐれないなどのお客様には、入場を自粛していただくよう呼びかけている。
 - ・風邪の症状のある方。(咳・咽頭痛・くしゃみ・発熱など)
 - ・強い倦怠感や息苦しさのある方。
 - ・嗅覚・味覚に異常を感じる方。
 - ・その他、新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる、過去14日以内に、政府から入国制限、入国後の観察期間を必要と発表されている国・地域等への渡航、並びに当該在住者との濃厚接触があるもしくは感染可能性の症状がある方。
- マスク着用での入店及び、プレイ中のマスク着用を要請している。また、マスクをフロントに常備し、マスクを持参していないお客様がいた場合は、フロントでお渡ししている。
- 大声での会話の自粛を呼びかけている。
- 入店時の手の除菌・消毒、検温、また退店時の手洗いについて協力を要請している。プレイ前後、およびトイレ前後の手指消毒は特に重要なので、フロント・張り紙等でお客様に注意を促している。
- 使用後のハウスシューズ及びハウスボールは、スタッフが除菌・消毒してから返却することとし、使用レーンに置いたままにしている。
- プレイ終了後は、店内が密状態になるのを避けるため、速やかな退店を促している。
- 可能な限りキャッシュレス決済を導入するとともに、ゲーム料金等の支払いの際には、キャッシュレス決済の利用を推奨している。
- 高齢者や持病のある方については、感染した場合の重症化リスクが高いことから、より慎重で徹底した対応を心掛けている。
- 団体で来場されたお客様に対し、お帰りの際に公共交通機関・飲食店等を利用する場合は、密集を回避するために、交通機関・飲食店等の分散利用を注意喚起している。
- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱に十分注意しながら、入場者等の名簿を必要とみなされる期間(3週間以上)、適正に管理することも検討する。
- 厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoA)のダウンロードや、地方自治体独自の通知システム、来場者のQRコード読取システムの利用登録を呼びかけている。また、アプリQRコードを、入り口・掲示板・フロント等に掲示している。接触確認アプリ(COCoA)は、有効に機能させるため、「電源をonにしたうえでBluetoothを有効にする」ことを掲示等により推奨する。

2. 場内の衛生確保、感染対策

1) 場内全般

- こまめな手洗いを励行するとともに、可能な限り入り口の手指除菌・消毒剤の設置及び消毒を行い、出来れば各レーンに除菌・消毒剤を設置している。
- 地域住民への騒音にも配慮しながら、出入り口のドア、自動ドア、窓を可能な限り開放し、良好な換気の状態を確保している。
- ハウスボール・ハウスシューズ・ボウラーズベンチ・スコアテーブル・スコアパネル・ボールリターン（リセットボタン・ハンドドライヤー吹出し口等）・エレベーターボタン・ドアノブ・自動販売機ボタンなど、共有設備や高頻度接触部位の除菌・消毒を徹底している。また、巡回清掃の実施及び実施済み管理簿を設置している。※ハウスボールについては、特に指穴の除菌・消毒を徹底すること。
- バックヤード、ロッカールームについても、出来る限り良好な換気の状態を確保するよう努め、共有設備や高頻度接触部位の除菌・消毒を徹底している。
- ボール拭きタオルは、お客様ごとに清潔なものを人数分渡すなど、共有をなくすための方法を各ボウリング場で工夫している。
- 待ち時間の混雑を避けるため予約を推奨している。
- お客様をレーンにご案内する際は、各ボウリング場のボウラーズベンチやコンコースの広さから1レーン内の人数及び、人数によっては使用するレーン数を考慮し、三密を避けるよう各ボウリング場で十分に配慮をしている。また利用者への指導を徹底している。
- フロントでの飛沫感染を防止するため、ビニールシート・アクリル板などを設置し接客にあたっている。
- 長時間（5分以上）の対面接客や、レッスン・スクール勧誘等は自粛している。
- アプローチ上ではお客様とスタッフの会話は行わず、2メートル以上の距離をとっている。
- ユニフォームや衣類、ウエス等はこまめに洗濯をしている。

2) トイレ

- 不特定多数が接触する場所は、清拭消毒を行っている。
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示している。
- ペーパータオルを設置している。
- ハンドドライヤーは止め、共通のタオルは禁止している。

※なお、ハンドドライヤーについては最近のエビデンスに基づき、メンテナンスや清掃等の契約等を確認し、また、アルコール消毒その他適切な清掃方法により定期的に清掃されていることを確認する場合には、使用を可とする。

- トイレ内もできる限りの換気に努めている。

3) 待合・休憩スペース、喫煙室

- 一度に休憩する人数を減らし、対面で会話をしないようにしている。また、ソーシャルディスタンスの確保（最低1m、出来れば2m）に努めている。
- 待合・休憩スペースは、常時換気することに努めている。
- 共有する物品（テーブル、いす等）は、定期的に消毒している。

- 従業員が使用する際は、入退室の前後に手洗いをしている。

4) 飲食スペース

- テーブルやいす等を減らし、ソーシャルディスタンス（最低1m、出来れば2m）の確保やパーティション（アクリル板）の設置に努めている。
- 席の配置を対面から横並びに変更している。
- 常時換気することに努めている。
- 個室がある場合は、その利用は休止している。
- 定期的に、テーブルやいす等の手の触れる箇所を消毒。

5) ゴミの廃棄

- 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛っている。
- ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用している。
- マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗っている。

6) 清掃・消毒

- 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いた清掃。および通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、始業後に清拭消毒している。

3. スタッフの健康管理

- スタッフ全員に出勤前の検温を義務付けし、発熱した者に対し出勤停止の徹底を促している。
- 1. 利用者への注意喚起の「体調のすぐれないお客様には、入場を自粛していただくよう呼びかけている。」にある項目に該当する場合は、出勤停止の徹底を促している。
- 業務中は、マスクの着用を徹底している。（場合によって手袋を着用）
- 手洗いを徹底している。その際、可能な限り、手指の除菌・消毒についても励行している。
- スタッフの家族等、同居者に感染者や感染源への接触があることが判明した場合は、即刻出勤停止とし、他のスタッフとの接触について正確に把握する。
- 普段から、健康観察アプリなどを活用し、毎日の健康状態を把握している。
- 出勤後に少しでも体調が悪い従業員が見出された場合や従業員が発熱など軽度の体調不良を訴えた場合、その従業員に対し、抗原簡易キットを活用した検査を検討する。
- 抗原簡易キットでの検査結果が陽性であった場合、保健所の手承を得た上で、「接触者」に対してPCR検査等を速やかに実施する。
- 寮などで集団生活を行っている場合や、従業員同士の距離が近いなど密になりやすい環境（労働集約的環境）、一般的な感染防止措置を行うことが困難な場合など、クラスター発生の危険性が高い職場環境では、定期的なPCR検査の活用も有用であるので、導入を積極的に検討する。

4. 感染者が発生した場合の対処（保健所からの通知・本人からの通告）

- まず、即時に保健所へ報告する。(求められる情報の速やかな開示)
- 保健所の指示に従ったうえで早い段階で休業を決定し、関係者への周知を徹底する。
- 関連者リストを求められる場合を想定し、抽出するデータベースの確認や手順を事前に具体化しておく。

5. リーグ・トーナメント・ボウリングスクールの運営

- リーグ・トーナメントを実施する場合は、参加者同士が密にならないよう距離を極力とるように指示をし、大声での会話、握手・ハンドタッチ等は自粛するよう要請している。
- スクール受講者との距離を保ったレッスンを行ない、極力触れないようにしている。
- インストラクターはマスクを着用、実施前は検温をし、ソーシャルディスタンス（最低1m、出来れば2m）を心がけている。
- 大声でのレッスンを控えている。
- 受講者に対しても、観戦中やレッスン中の歓声を控え、拍手に置き換えるよう指導している。
- スクール受講者同士が密にならないよう指導している。
- レッスン終了後、インストラクターはボウラーズベンチ、スコアテーブル、スコアパネル、ハウスシューズ・ハウスボール（使用した場合）を除菌・消毒している。
- リーグ・トーナメント参加者、スクール受講者にもマスク着用を義務化し、「1. 利用者への注意喚起」の「①体調のすぐれないお客様には、入場を自粛していただくよう呼びかける。」にある項目に該当する場合は参加を断っている。
- インストラクターの健康チェックリストの強化を図っている。
- リーグ・トーナメント等で受講者がスクールバス等で移動する場合には、車内での対人距離確保、正しいマスクの着用、換気、会話の自粛、消毒等感染防止策を徹底している。